

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1670102613		
法人名	医療法人 社団 恵成会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	富山県富山市塚原195-1		
自己評価作成日	平成30年11月14日	評価結果市町村受理日	平成31年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigvosvoCd=1670102613-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	平成30年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開放性のある木造平屋建てをいかして、各ユニット間の交流を活発に行っている。利用者様もご近所感覚で各ユニットに出入りしており、職員も支援している
 ・医療法人ならではのサポート体制で月2回往診の医療連携しており、安心して生活し健康を維持する事が出来る。また、法人内の他事業所(老健)とも連携しており全体で対応している
 ・塚原町内会の行事に参加したり、当施設の行事にご招待したり、地域との交流する機会を多くもてるように活動している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・グループホームの開設から14年が経過しており、認知症の人のかかわり方や高齢者一人ひとりの尊厳など、質の高いサービスとして日常の支援につながるよう取り組んでいる。
 ・継続して外部評価を受審し、事業所が行うサービスを自己評価し、外部評価も得るという機会として活用している。
 ・毎日の食事が満足度の高い食事内容である。
 ・市内ではあるが、自然環境に恵まれ、近所までの散歩もしやすい場所にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や、定例会議で理念を唱和し、また、分かりやすいモットー「明るく楽しく元気よく」を作成、各ユニットに掲示し全職員の理解を深め、実践している。	事業所理念は「地域の中で自然な暮らしを共に創る」であり、玄関から入ってすぐのホールと各ユニットに掲示されている。朝礼でも唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中で地域にとけ込むよう、資源回収や季節に応じて行事に参加し、地域の方々と交流している。また、隣近所の方々への声かけを徹底している。	地域の資源回収日には、地域の方が事業所まで取りに来てくれる。地域の公民館祭りに参加したり、事業所行事への地域住民の参加を呼び掛けるなど、地域との交流を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や民生委員の方々、町内定例会議への出席を通して認知症に関わる相談や見学を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容、活動状況を報告し、家族、地域包括支援センターの方々の意見を聞いて運営に反映している。毎月の請求書発送を活用し、参加案内を送付したり、面会時に声掛けし働きかけを行っている。	運営推進会議は2か月ごとに開催されている。町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所職員が構成メンバーである。サービス内容等について報告し、検討している。出席者からの情報を得ることができている。	構成メンバーの内、欠席者の多い開催日もあったことから、会議の重要性をより認識し、開催日程の調整や会議内容の充実に努めていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、助言、相談、情報等頂いている。町内会長、民生委員にも情報を伝えて協力を得ている。また、管理者が電話で情報の共有を図っている。	地域包括支援センターは介護上に生じた相談事などいつでも相談できる状況にある。運営推進会議でも助言や身近な情報ももらっている。職員研修や各種行事の情報などももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ユニット間の施錠はなく、利用者が自由に出入りしている。日ごろから外出しストレスを溜めない様にしてしている。身体拘束外部研修に参加し、それについて社内研修を行い職員全体に周知する。毎月身体拘束に関する行為について話し合い確認している。	事業所方針として「身体拘束はしない」としており、日常的な言葉遣いなど、職員間で話し合う機会を月1回設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分の親の立場ならと想像力を養い他者の気持ちになるという習慣を身につける工夫をしている。業務上のストレスにも気を配り定期的な面談などを行っている。職員全体会議で虐待防止について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業者や成年後見制度について学んでいるが、現在は該当する利用者様がない。研修があれば参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を用いてわかりやすい言葉で、説明することに心掛けている。随時質問も受けており、説明している。自分の説明で伝わらなければ、他管理者に説明の補足を願っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に要望や些細な事柄でも気になる所がないか、個別に対応している。また運営推進会議で御家族との交流を図り、意見・要望をお聞きしている。	運営推進会議ではユニットごとから家族代表の参加が予定されており、家族からの意見に耳を傾けるよう心掛けている。面会時にも家族の思いを話してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で意見を出し合い検討する。解決できない場合は、ボトムアップし、意見を仰いでいる。会議以外でも問題提起時、各ユニット長が検討し回答する。情報が共有出来る様、他ユニットにも伝達する。	ユニット長は法人の会議に毎週1回出席しており、意見等についてこの会議で検討している。検討された内容は事業所内の月1回の会議で説明している。	今後さらに、職員が運営に関する意見や提案を言いやすい雰囲気を作り上げるとともに、それらを運営に反映させる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションを高める一環として、研修参加には、自発的に参加希望を募り、勤務調整を行っている。また、適任者には研修を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議で内部研修も随時行っている。郵送やFAXなどで送られてくる介護研修についても回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に、外部と交流し情報交換している。それを共有することで、利用者のサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の会話や仕草から、ご本人の思いや気持ちを汲み取り、傾聴している。また、日々の記録に、言葉や仕草普段と違う様子なども記録するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の気持ち、思いに耳を傾け、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。不安な事や心配事がないか遠慮なく話して頂くよう声掛けをこちらからも伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所だけでなく、他のサービスも視野にいれたうえで、御本人、御家族に必要な提案を行うように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや願い、希望をしっかりと傾聴し、生活の中で取り入れている。個々の得意とする事に目を向け残存機能を活かしている。出来る事、したい事が出来る様努め、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時や、所用で電話があった時には、近況報告を行っている。また、要望もお伺いして、良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の意向を汲み取り、ドライブ時に馴染みの場所に出かけるようにしている。また、御家族には可能な限り、外出・外泊をお願いしている。	頻回に面会がある家族がいる一方、遠方に住む家族もいる中で、できるかぎり馴染みの関係の継続を工夫し実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル拭きや食器洗いなど利用者様同士協力しながら実施している。感謝の気持ちを伝えそれを受け取る利用者も偉ぶる事なく接しており良い関係が築けている。食堂の配置も孤立なし。合同レクを毎日実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が決まっても、今までの信頼関係を、大切に、今後も何か分からないこと、何か困りごとなどがありましたら、遠慮なくご相談くださいませと、声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々暮らしの中で、職員と利用者様との会話、また、利用者様の表情、顔色、言葉遣い、仕草等、気づきの精神で把握するように、努めている。また、申し送り簿に記載し、口頭でも伝達するようにしている。	その日の表情や体調の変化等を見逃さず把握するよう努め、申し送り簿に記載し職員間で共有している。事業所全体の雰囲気は明るく、居心地よく過ごせる環境の中、事業所内には利用者職員が1対1で話せる場所が随所に見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・サマリー・生活歴等情報は、必ず再確認し、本人様との関わりだけでなく、面会に来られた御家族からも、必要に応じて情報収集を行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の様々な場面の中での様子、また、ひとりの時にはどのように過ごしているかを観察して、心身状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中での様子の変化など、各職種間で話し合い、再アセスメントを行い、各職員にも伝達して、反映させるように努めている。また、その都度利用者、家族の思いを聞き取り反映できるようにしている。	介護計画の見直しやモニタリングは定期的に行っている。利用者の担当は決めておらずフロアで把握した気付きを全体会議で話し合っている。家族の面会時に意向を聞きとり、反映した内容で作成している。面会時に説明し、承諾を得ている。	見直しは定期的には実施しているがほぼ一律で継続した表現である。職員が利用者により深く寄り添い、モニタリングした内容の介護計画の策定を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子の変化・行動・言動等、気付いた事は、日誌及び経過表に記載し職員間で情報を共有している。必要に応じて口頭でも伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の要望、意向等踏まえ、日常業務の中で検討し、柔軟に対応したサービス提供が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月単位で、音楽演奏・ハーモニカ演奏・地域での作品展等ボランティアの協力があり、また、町内のいろんな行事などに参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、かかりつけ医の往診がある。緊急時や体調不良時等は、主治医の指示のもと、御家族と職員が連携して受診を支援している。	月2回訪問診療を受けている。訪問診療医の専門外の診療科目については家族同伴の受診としている。家族の事情により職員が付き添う場合は、受診後家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者様の日常の様子や気づいた事は、些細な事でも看護師に報告し、指示を仰いでいる。必要時には、かかりつけ医への報告も担当して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、地域連携室と情報交換を行い、状況によっては、御家族や病院関係者から情報収集を行い、退院後、可能な限り、当事業所へお戻りいただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時やそれ以前の見学時にも、御家族に、専門的な治療が必要になった時は、当事業所での生活は困難であることを伝えている。状態が変化した際にも、かかりつけ医の指示のもと、御家族の意向を踏まえ今後のことを、検討し話合っている。	見学時や入居契約時に重度化された場合は当事業所では対応はできない旨を伝えている。職員体制や人員確保が厳しく今後も検討できない現状である。状態が変化した場合には連携病院と話し合い、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、各ユニットに配布している。また、年2回(6月12月)消防避難訓練を行い、内一回は、消防士立ち会いの元、指導を受けている。今年は、町内会長様も参加あり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2階に備蓄をし、推進会議で災害時の地域の協力をあおんでいる。また、火災訓練は夜間時を想定して行っており、火災避難対応マニュアルは、事務所にある。	年2回避難訓練を実施している。避難場所は事業所内の共用空間である。利用者の参加も少なく、職員の参加も当日出勤者のみである。町内会に加入しているが具体的な協力体制の構築には至っていない。備蓄も少ない。	避難場所が遠く、車いす利用者の避難にかかる人員や歩行できる利用者の所要時間等のシュミレーションをされ、住民の協力体制を早急に構築されることを望む。また、備蓄品の整備も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心・自尊心が、保たれるように、気配り・配慮に心掛け、尊厳の保持の大切さの根源にもとづいて、対応している。	利用者との関わりの中で、職員は慣れからくる対応にならないように心掛け、声掛けは姓で統一している。利用者がその人らしく過ごし、自尊心が保たれるような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを傾聴し、発する言葉の中から思いを聞き出し出来る限り本人に意思決定を促している。職員の押し付けにならないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で、食事・入浴等ある程度は、決められていることはあるが、可能な限り御本人のペースで意思や希望を、尊重するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立支援に基づいて、出来る事は可能な限り、本人に行って頂く。入浴時の着替えの服も出来るだけ、本人に職員と一緒に選んで頂いている。訪問理美容サービスもあり、希望者様に利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下準備、調理時の味見、テーブル拭き、下膳、食器拭き等を手伝っていただいている。職員は、利用者様と一緒に食事を、同じ場所・同じ時間で頂いている。本人に合わせた食事形態を提供している。	介護度の低い利用者が多く、食欲も旺盛で食事を楽しまれている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、さり気ないサポートに努めている。昼食は委託業者が調理し、朝・夕の食事は委託業者が揃えた食材で夜勤者が調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量は、個々利用者毎に記録している。補助食品も利用している。摂取量が少なくなっている時は、看護師に報告し、主治医の指示を仰いだり、御家族に報告し、協力を依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の口腔状態を把握し、口腔ケアを実施している。職員による義歯洗浄や磨き残しの場合は、介助にて残渣物を取り除いている。週に2回のポリドントによる義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便の時間や仕方、失敗の有無等を、利用者様毎に排泄表に記載することにより、個々のパターンを把握して、できる限りトイレでの排泄に努めている。	利用者の排泄パターンや表情からトイレ誘導に努めており、できる限りトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や回数、排泄物の形状等など、異常・異変があれば、看護師に報告し、かかりつけ医の指示を仰いでいる。自然排便を促すよう、体操なども取り入れ、水分摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の利用者毎に、利用者の意向・体調を踏まえながら、調整を行い、週2回の入浴を心掛けている。看護師との連携で、入浴前にバイタルチェックや体調の情報の共有を万全にしている。体調によっては、シャワー浴や清拭も随時行っている。	原則週2回としているが希望すれば毎日でも入浴可能としている。浴室は2箇所あり、いずれも一般浴槽で明るく清潔である。職員の見守りがスムーズにできる広さである。介護度が進む利用者を想定した対応を考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は常夜灯を使用し、雑音など音を小さくする等安眠に努めている。不眠時・不穏時などには、温かい飲み物等を提供し、状況によっては、主治医と連携をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋には必ず目を通し、常時閲覧可能カルテに保管してある。個々の利用者様によっては、薬の服薬支援を行い、変化や、気づいた事なども看護師に報告し、かかりつけ医の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の趣味や個性を活かし、洗濯物干し・たたみ、食器洗いや掃除の家事動作の出来る事を活かしている。職員の声掛けや、自発的に意欲的に進んで取り組んでいる。散歩も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子使用の利用者様が増えてきているが、季節に応じて散歩やドライブで外出できる機会がもてるように支援している。また、町内BBQ大会等、可能な限り交替で全員参加している。	年間行事計画で季節ごとのドライブや全員で夕食などをして楽しむ機会を持っている。事業所はアパートや会社の事業所が多く密集した住宅内にある。買い物に出かけるにはやや遠く、利用者の現状では、普段は天気の良い日に公園や近隣を散歩する程度である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は御家族に管理していただいております。外出・外食など、必要時に用意して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了解のもと、電話を掛ける支援と受けとる支援を行っている。御家族様から電話を受け取った際に、時間が許せば、本人様と交代して話して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と職員とで、共同作業した作品などを飾ることで、温かみのある生活空間となるように、心掛けています。また、御家族の了解を得て、行事写真などをホーム内に飾り楽しんでいます。夜間は居室に光が入り込まない様に工夫しています。	ほとんどの利用者は1日の大半を共有空間で過ごされている。利用者は2ユニット間の往来が容易にできる構造である。壁面には大きく行事写真が掲示されており、利用者の手作り作品も見受けられ、訪問者にも温かい印象を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者と職員とで、共同作業した作品を飾る事で、温かみのある生活空間となる様、心掛けています。家族の了解を得て、行事写真をホーム内に貼って楽しんでいます。広場にソファを置きくつろげる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に記載されている危険物等など危険物以外のものであれば、何でも生活必需品などを持ち込めるように配慮している。居室内のレイアウトも利用者様・御家族の自由にして頂いております。	各居室は陽当たりが良く清潔である。利用者の中には廊下や居室を自ら掃除する人も見受けられる。居室には整理だんすと洗面台が設置され、整然とし広々としている印象を受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご利用者の状態・状況などを勘案し、看護師とも相談しながら、見守りの基本をしつつ個々のできる事、できない事を把握して、安心・安全な生活が送れるように、心掛け支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難場所が遠く、車いす利用者の避難にかかる人員や歩行できる利用者の所要時間等のシュミレーションをされ、住民の協力体制を早急に構築される事を望む。備蓄品の整備も望まれる	備蓄品の整備 避難経路の再確認	備蓄品をすぐに使用できる様に準備を整え、分かりやすく一覧表を掲示する 普段の利用者様との散歩時に避難経路の確認を行う 避難訓練時に町内会長の方に参加を働きかける	12ヶ月
2	4	構成メンバー内、欠席者の多い開催日もあったことから、会議の重要性をより認識し、開催日程の調整や会議内容の充実につとめていただきたい	開催日の調整及び議題内容の充実化	日頃から構成メンバーと連絡を取れる様に努めつつ、会議内容を検討していきたい	12ヶ月
3	26	見直しは定期的実施しているがほぼ一律で継続した表現である。職員が利用者により深く寄り添い、モニタリングした内容の介護計画の策定を期待する	モニタリングの仕方を具体化し、介護計画に反映する	利用者様に個別担当を設け、本人様の状態や気付きを、サービスに活かせるようにする	12ヶ月
4	11	今後さらに、職員が運営に関する意見や提案を言いやすい雰囲気を作り上げるとともに、それらを運営に反映させる取組みに期待したい	円滑な連携を図る	職員の意見や提案を書面で残し、皆で改善策を話せる職場の雰囲気作りに努める	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。